

令和元年

本年度2回目のお正月を迎えたような令和改元に押され、いつまでも「年頭所感」が巻頭を占めているHPを、何とかしなくてはと、ようやく更新に手をつけた5月の連休でありました。いつもながら、仕事の多忙を口実に後回しになってしまうHP更新であります。

明日への希望

美しく平和に そして 心豊かに

一瞬、命令の“令”を思い、教養のなさを思い知らされたものでしたが、日を追うごとに美しい響きを感じつつ迎えた5月1日の令和改元の幕明けでした。30年前の平成になった時とは比較にならないほどの明るい希望を感じる天皇陛下代替わりでありました。



5月1日 8時半受付の市役所令和婚届出の様子を見に行きました。8時45分には約30組が届出に並ばれました。“令和婚に幸あれ!”



神殿に手を合わせ“次世代に幸を!”

5月2日は“初詣”気分で遠江一宮小國神社に行ってきました。

東京から帰郷していた長女夫婦・孫達と一緒にです。長女夫婦は〇〇年前当神社で結婚式を挙げ、この日が結婚記念日ということで。それと小生の祖父は三河一宮砥鹿神社の宮司であったこともあり、同じ一宮神社として小國神社には遠い縁を感じていて、節目節目に手を合わせに来ています。次世代の若者たちにとって美しく平和な「令和の時代」をお願いしたものです。



令和

れい わ

平成 31 年 4 月 1 日公布
令和元年 5 月 1 日施行

令和は、日本最古の歌集「万葉集」より引用され、「暖しい寒さの後に春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、明日への希望と共に大きく咲かせることができる時代を」との願いが込められました。また悠久の歴史と薫り高き文化、四季折々の美しい自然、日本の国柄を次の時代へと引き継ぐことにも重きをおいた制定となりました。

万葉集 梅の歌 三十二首序文

初春の令月にして
気淑く風和ぎ
梅は鏡前の粉を披き
蘭は珮後の香を薫す

【万葉集】
現存する日本最古の歌集で和歌の原点とも称される。天皇、貴族から、防人、農民まで様々な身分の人々が詠んだ歌 4,500 首以上を収めた国書。元号が日本の古典から引用されたのは、歴史上初めて。